

Art Watching

アートウォッチング

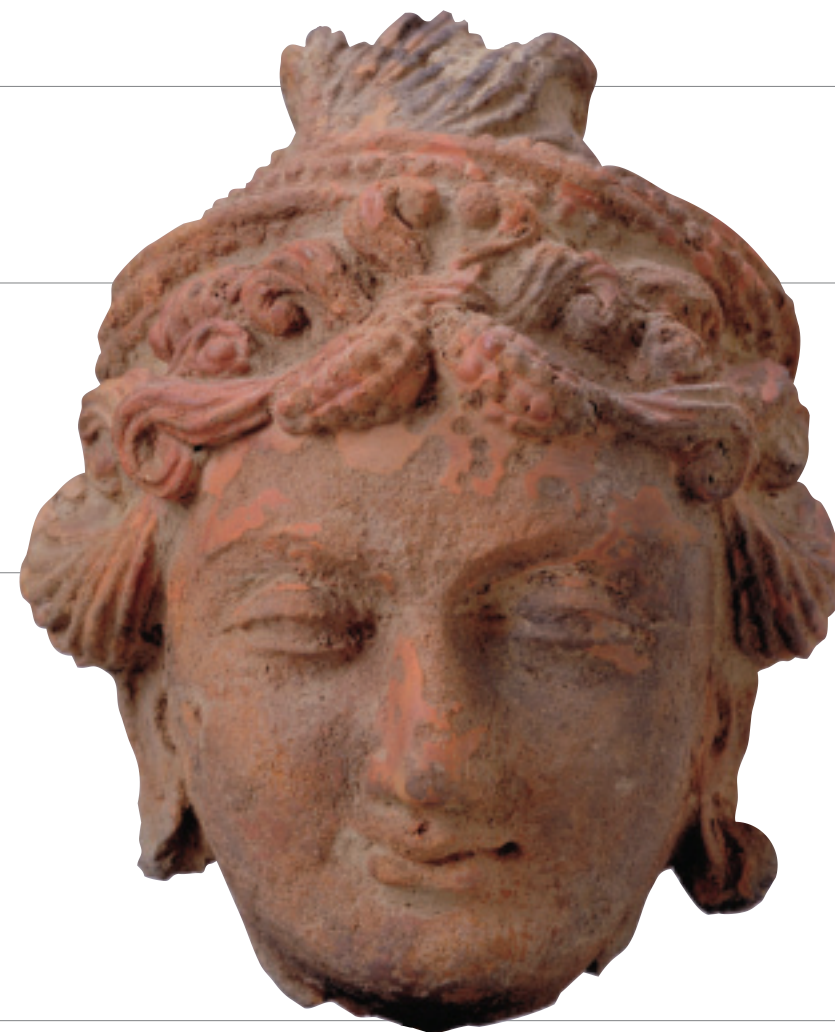


塑造菩薩像頭部

Head of Bodhisattva or Female Donor

アフガニスタン周辺
2～4世紀
高 24.5 cm

Probably Afghanistan
2-4 centuries CE
H. 24.5 cm



菩薩か女性の頭部かと思われます。高く結い上げた髪型は菩薩に多く見られるものですが、菩薩像であることを決定付けるには、装身具や持物から判断しなければなりません。また、この像の額には仏菩薩にそなわるウールナー（光明を放つとされる小さな円形マーク）がありません。表面に描かれていたものが剥がれ落ちた可能性もあります。

真正面から見ると鼻や唇が少し歪ん

でいます。これは、本来の設置場所での礼拝者の視線を意識し、脇侍のように斜めからでも美しく見える角度を計算して作られたからでしょう。

彫りの深い顔立ちにガンダーラ美術圈らしいヘレニズム的な影響がうかがわれます。アフガニスタン東部のハッダ村周辺の仏教寺院址群から出土している粘土像やストウッコ像に、近い表現が見られます。



Whether bodhisattva or woman, it is difficult to ascertain as only the head survives. We usually identify Buddhist images through their symbolic attributes. The decorative hairdo with a top-knot resembles those of bodhisattvas, but this image does not have the sacred mark *ūrṇā* on the forehead.

When viewed from the front, the face looks slightly distorted because it was

made to be seen in three-quarter view as is often the case with attendant figures flanking the main image.

The naturalistic facial features reflect influences of Hellenistic origin that characterize Gandhāra images. Examples close in representation may be found among those excavated at Buddhist sites of Hadda, eastern Afghanistan.

福原庸子 Yasuko Fukuhara

Gallery Talk ギャラリートーク

バーミヤン大仏の最期を撮る

The Last Days of the Buddhas of Bamiyan

菅沼隆二 Ryuji Suganuma



私は、今から5年前の2000年8月19日の昼下がり、カブール市中心部の大通りに面したビルの4階にあるタリバンの情報文化次官であるホタク氏の部屋を訪ね、永年の夢が叶ってバーミヤン遺跡を見学できたことのお礼を述べた。

見てきたばかりの大仏の印象を聞かれたので、西大仏の削られて偏平な顔は黒く煤けていて、大仏足下の僧堂跡の石窟は武器弾薬庫として使われていること、東大仏は撃ち込まれたロケット弾によるダメージが大きく天井の壁画は消滅し、まともにいた衣紋も剥落寸前の状態で哀れな姿を留めていて、素人目にもこのまま放置できない状態だったと話した。

ホタク氏は、バーミヤン大仏をはじめ長く続いた内戦と盗掘などで傷んだ各地の遺跡の修復と保存するために早く内戦を終結させて、資金調達や人材育成について海外からの、取り分け日本からの援助をお願いしたいと言って、脇にあった書類整理箱から最高指導者オマルの署名のある「文化財保護に関する指令書」のコピーを取り出し、後で読むようにと手渡された。

残念なことに、それから間もなく穏

健派のホタク氏は職を解かれ、翌年3月にはバーミヤン大仏がタリバン過激派によって爆破されてしまった。



西大仏頭部と天井壁画 (2000年8月13日撮影)

駐屯していたタリバンの兵士の説明によると、一年半ほど前に少年兵がタイヤを燃やしたために顔面が煤け、天井壁画も一部剥落したという。

The head of the west Buddha and wall painting of Bamiyan (Aug. 13, 2000)



2000年8月17日に文化財保護を呼び掛ける集会が開かれ、カブール博物館や修復されたばかりのナショナルギャラリーなどを視察した。

Meeting for the protection of cultural heritage (Aug. 17, 2000)

Shortly before the Buddhas of Bamiyan were totally destroyed by Taliban, Ryuji Suganuma gained an opportunity to visit the site. On August 19th, 2000, Suganuma called on Abdul Rahman Hotak, Taliban Deputy Minister for Information and Culture in Kabul and thanked him for realizing his long-awaited pilgrimage to Bamiyan. Listening to Suganuma's report—Buddha's burned face, rocket bomb holes, flaked off ceiling painting and monks' caves turned into weapon storage—Hotak handed him a copy of fatwa statement by Taliban Supreme Leader Mulla Muhammad Umar for the protection of cultural properties. Hotak was making every endeavor to stop the civil war, to restore the damages and preserve the site through foreign aid, particularly of Japan.

Suddenly, however, Hotak was dismissed, and the great Buddha images of Bamiyan were reduced to rubble.

(English abstract by Yasuko Fukuhara)



カニシカ王像 (2000年8月17日撮影)

カブール博物館にあったスルフ・コタル神殿出土のカニシカ王像や多くの仏像が、バーミヤン大仏爆破と同じ時期にタリバンによって破壊された。

A statue of King Kanishka from the site of Surkh Kotal, the Kabul Museum, also destroyed by Taliban (Aug. 17, 2000)

[写真撮影 菅沼隆二 Photographs by Ryuji Suganuma]

民族と文明の十字路、国際政治の焦点 アフガニスタン

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

万年雪を頂く高峰を背にした村むらへの道すがらの美しさは、熾烈な紛争の現場に近いことをしばし忘れさせてくれる。南アジア、西アジア、中央アジアの接点に位置するアフガニスタンは常に周辺に起る諸勢力や大国に圧迫され続けてきた。アフガン人自身がインドやペルシャの支配者になったこともある。このような歴史と山岳特有の地勢を反映して、日本の約1.7倍の土地に言語、宗教・宗派を異にする約二十のエスニックグループが共存し、多彩で豊かな文化を生み出してきた。

だが、民族の多様性が紛争の火種となり、同時に近代以降は大国の利害が錯綜し、その干渉も多いため、永続する平和と安定の訪れを期待することは難しかった。

19世紀末から20世紀初めにかけて内陸アジアをめぐるロシアとイギリスの間で行われた「ザ・グレートゲーム」と称する勢力争いの渦中に投げ込まれ、緩衝国として強引に国境線が引かれた結果、アフガン人（パシュトゥーン人）はアフガニスタンと現パキスタン領に分断される形となり、逆に北部にタジク人、ハザラ人、ウズベク人等を抱えることになった。

1919年独立を達成したが、第2次大戦後



学校へ向かうカブールの少女たち（2004年7月撮影）
School girls in Kabul (July, 2004)
[写真撮影 山田利行 Photograph by Toshiyuki Yamada]

は米ソ冷戦の渦中へ。73年に王制から共和制に移行したが、78年の軍部クーデター以降戦乱が続く。79年12月から親ソ政権を助けるソ連の軍事介入に対するイスラム戦士ムジャヒディーンの抵抗、89年2月ジュネーブ合意に基づきソ連軍の撤退が完了し、92年ムジャヒディーンの政権が成立するが、各派間の主導権争いにより内戦状態が継続。94年頃から、イスラムへの回帰を訴えるタリバーンが勢力を伸ばし、99年までには国土の9割を支配するに到った。2001年10月より、米国同時多発テロ事件を機とする米・英等によるアル・カーイダ及びタリバーンに対する軍事行動が行われ、12月には北部同盟等がタリバーン支配地域を奪還した。米国はかつて一時的には支持したタリバーンを自らつぶしたのは皮肉である。

アフガニスタン各派の代表は今後の和平プロセスに関する合意を達成し（ボン合意）、2002年6月緊急ロヤ・ジェルガが開催され、カルザイ移行政権が成立、2004年1月に新憲法制定、同年10月9日に大統領選挙が行われ、カルザイ大統領が当選した。投票率は80%に達しており、タリバーンの妨害はほとんど無かった模様で、これは長年の戦争に倦んだ国民の安定への願いの表れと言えよう。

しかし、その間周辺国に流出した難民は500万人以上にのぼる。

国際社会には、これら難民・国内避難民（IDP）の帰還と再定住、復興支援などの課題が山積している。日本政府は、2002年1月に東京でアフガニスタン復興支援国会議を開催し、同時多発テロ事件以降これまでに総額約8億ドルに上る復興支援・人道支援（選挙準備・実施経費支援、元兵士の武装動員解除・社会復帰、幹線道路修復等）を行っている。

Afghanistan, a land of snow-capped peaks of the Hindu Kush, fertile valleys, rolling hills and deserts where 17 million persons of about 20 ethnic groups with distinct languages and multi-cultural heritages, has a long history. But it has often suffered from foreign interference or domestic struggles for power, chronologically, “the Great Game” between Great Britain and Russia in the 19th century, the British conquest and Afghan independence, huge financial aid from the U.S. and the USSR in the Cold War, the republican institution induced by the coup d'état in 1973, the Communist revolution in 1978 followed by the Soviet military invasion and the resistance of Mujahadeen guerrillas against the Soviets, the continuation of

civil war, the Taliban's ("students of God") control of Afghanistan and finally the U.S.-led military operation against the Taliban and the Al-Qaida. Recent twenty-five-years' war and internal tumult resulted in more than five million refugees.

The international community including Japan has strongly supported the new Afghan Government and the people's resolution to achieve eternal peace and stability. It has been committed to the contribution to the reconstruction of Afghanistan.

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

アジア・太平洋国会議員連合中央事務局事務総長。元駐アゼルバイジャン大使。
Secretary-General, the Central Secretariat of the Asian-Pacific Parliamentarians' Union. Retired ambassador.

Special Exhibitions and Events

展覧会・イベントのご案内

秋の特別企画 Special Event 2F

ミュージアムでバードウォッチング
Bird Watching in the Museum

2005年10月1日(土)～12月27日(火)
Saturday, Oct. 1 to Tuesday, Dec. 27, 2005

行楽の秋、展示室に隠れている様々な鳥のデザインをバードウォッチングするつもりで探してみませんか？ 参加者にはオリジナルシールとはがきをプレゼント！

Look for bird motifs in the Yokohama Museum of EurAsian Cultures. Make your original postcards with bird-design seals (complimentary).

参加費 入館料のみ

Free with museum admission.



企画展 Special Exhibition 3F

世界遺産 バーミヤン大仏：カメラがとらえた爆破直前の勇姿(仮称)

Devastated Buddha : The Great Buddha of Bamiyan before the Destruction

2006年2月18日(土)～4月16日(日) (予定)
Saturday, Feb. 18 to Sunday, Apr. 16, 2006

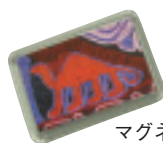
遺跡、街、人々、そして子供たちの笑顔。菅沼隆二氏らが撮影した写真から、過去7年のアフガニスタンをご紹介します。Afghanistan of the past seven years — the Buddhist site, town and children photographed by Ryuji Suganuma.

入館料 一般500円、小・中学生250円(予定)
2階常設展示室、4階横浜都市発展記念館もご覧いただけます。

Admission ¥500 for adults, ¥250 for primary and junior high school students



バッグ Cloth Tote ¥840



マグネット
Art Magnet
¥280

ペーパーウェイト
Paperweight
¥630



ラクダは、ユーラシアの砂漠や草原地帯に欠かせない家畜です。現代では、アフガニスタン以西、中東ではもっぱらヒトコブラクダ、中央アジアからモンゴル高原にかけてはフタコブラクダが活躍しています。展示室のイラクの敷物に表されているのはヒトコブラクダ。モチーフにも地域性が表れています。Camels are indispensable domestic animals for the people of deserts and steppes in Eurasia. In the present time, camels in the area west of Afghanistan to the Middle East have one hump, and camels in Central Asia and Mongolia have two humps. Our floor covering from Iraq is decorated with one-humped camel design. We can enjoy such local features in art.

詳しくはホームページをご覧ください。Visit our website and browse around.
www.eurasia.city.yokohama.jp/

利用案内 Visitor Information

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453
<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

開館時間 9:30 a.m.~5:00 p.m.
(入館は4:30 p.m.まで)
休館日 毎週月曜日・年末年始他
入館料 一般200円
小・中学生100円
企画展開催時には別料金になることがあります。
毎週土曜日は小・中学生、高校生無料。
「障害者手帳」横浜市の「長寿のしおり」等をお持ちの方には、入館料の減免制度がありますのでお尋ね下さい。

Hours 9:30 a.m.~5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)
Closed Mondays and year-end/
New Year's recess
Admission ¥200 for adults
¥100 for primary and
junior high school students



Map in English → Website

交通アクセス
みなとみらい線日本大通り駅3番出口から徒歩0分
JR関内駅南口・市営地下鉄関内駅1番出口から徒歩約10分
Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal
Subway.

お知らせ Information

横浜ユーラシア文化館の
携帯サイトができました。
www.eurasia.city.yokohama.jp/i/



News from EurAsia No.4
横浜ユーラシア文化館ニュース第4号
企画・編集・発行 横浜ユーラシア文化館 2005年8月31日
デザイン / オフィスエルク
印刷製本 / ソルミ印刷
禁無断転載
©2005 Yokohama Museum of EurAsian Cultures

News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

■ 目次 Contents

アートウォッチング p.2

Art Watching

塑造菩薩像頭部

Head of Bodhisattva or Female Donor

ギャラリートーク p.4

Gallery Talk

バーミヤン大仏の最期を語る

The Last Days of the Buddhas of Bamiyan

菅沼隆二 Ryuji Suganuma

民族と文明の十字路、国際政治の焦点

アフガニスタン p.6

Afghanistan — A Crossroads of Peoples,

Civilizations and Geopolitics

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

展覧会・イベントのご案内 p.7

Special Exhibitions and Events

ミュージアムショップ p.8

Museum Shop

利用案内 p.8

Visitor Information



no. 4

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures